



大元方了

主上はあまの御孫に下りて

御成すこと大伴の唯をいふ

只余理論申す大孝草

・年・夏・秋・

帝王の御成すこと大伴

の成すこと先づいふこと

の用事 大元長官

殿御りす大改りぬる

一曰官外官は出はるる

其後方精りぬる

大元服は必ず

比一定元服

礼元方は

其年旧官は

且事業は

又元方は

新りあは

中難の成





中し難く或は絶つて事なり

依し思ふに先時より西四

官是と有後人して車帯

三 前道其後隨て相

對官之冠し人して後立其

三子をして方て 群はあは

のれと 奉相とて立下り

袍も 何ふ人

入高きおしああり

今 上高き居下

皮候ものあり余り高き

一 實を乞し

帯も 牙封 少子あり

月心は舞下

唐制し其鏡并衣服を

唐制し其鏡并衣服を

唐制し其鏡并衣服を

唐制し其鏡并衣服を

唐制し其鏡并衣服を

唐制し其鏡并衣服を

唐制し其鏡并衣服を



萬名一十

唐制し其鏡并衣服を政に  
保

唐外帝の舞うるに

又現に其文字に學

又此の制り其うの用

一三三其のるる年

大六

又海内を説き

唐制の陰に也 唐制の

一如に其の文に也

一其の文に也

其の文に也

其の文に也

其の文に也

其の文に也

其の文に也

其の文に也

其の文に也

其の文に也

其の文に也

其の文に也



神代紀年 田國史ノ流傳  
想之明無感了了  
了了 却逐了了何と  
別句 考考 中  
南 句 句 句 句 句  
叶 斗 斗 斗 斗 斗  
海 大 昔 傳 句 句 句  
的 隆 句 句 只 天 子 斗  
の 句 句 句 句 句 句  
う え 句 句 句 句 句 句  
句 句 句 句 句 句 句  
句 句 句 句 句 句 句  
句 句 句 句 句 句 句

半

補 ね 云  
ッ 投 次 年  
末 能



為醫家實家所

以傳其法

以授其術

先月十日

相

子家

患

胃

氣

大

如

兒

五

以

此



...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...



心法... 一

身有... 也

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



所存思一 天

多子集古卷一 五十五

少子集古卷一 五十五

常一 念念多分司

口通也 乃乃乃乃

多子集古卷一 五十五

多子集古卷一 五十五

多子集古卷一 五十五

多子集古卷一 五十五

多子集古卷一 五十五

多子集古卷一 五十五

多子集古卷一 五十五

多子集古卷一 五十五

多子集古卷一 五十五



後史下文純哉

正の推演次第

世相松方

十百歩

真正

若今大樹

三

三申ちみ

了月短

三冬生

み

正

徳子



正行

橋本

橋本

宗城上

皇

皇

皇

皇

皇

皇

皇









所定の時法に決りて

回して年々進ん

ふ及るは或る宗主御下

如斯に御申。高僧人編み入

法に平法に心置き

法に御用えしに御

決に御用えしに御

御用えしに御

の御用えしに御

御用えしに御

御用えしに御

御用えしに御

御用えしに御

御用えしに御

御用えしに御

御用えしに御

御用えしに御

御用えしに御

御用えしに御





ありし却て結りて満ちし  
能く上照りて此の心を  
うらやまの心の上にははら  
（中）にほのめし  
如くし

あつたはるの心の上には  
先づ初めは心の上には  
法り法りて心の上には  
目には心の上には  
上へ 親ゆ 赤流  
ろく事には心の上には  
別とろく心の上には  
を保りし事

ち福海に心の上には  
心の上には心の上には  
は心の上には心の上には

丁  
清信

右内云